

# ハワイ王国及び ロバート・ウォーカー・アルウィン年表

西暦	和暦	ロバート・W・アルウィン	ハワイ・日本
一七九五	寛政七年		
一八四四	弘化元年	デンマーク駐在米國代理大使 ウィリアム・ウォーレス・アル ウィンの三男としてコペンハー ゲンで生まれる。一月七日 米國フイラデルフィアに移住	カメハメハ一世 ハワイ王国 樹立を宣言
一八五〇	嘉永三年		日米和親条約締結
一八五四	安政元年	太平洋郵便汽船会社の横浜駐在 代理人として来日	日布親善協定締結
一八五六	慶応二年		日布両国の協約によらない移 民百五三名がハワイに渡る
一八六六	慶応四年		日布和親通商条約締結
一八六七	慶応三年		
一八七三	明治四年	先取会社（三井物産の前身） に参加	
一八七七	明治十年	三井物産ロンドン支店開設準 備のため渡英	
一八八〇	明治十三年	ハワイ國総領事代理を勤める	
一八八一	明治十四年	ハワイ國総領事任命 この頃 ハワイ國移民事務局 特派委員に任命される	カラカウア王来日 移民を要請
一八八二	明治十五年	武智イキと結婚(日本政府の許可)	

西暦	和暦	ロバート・W・アルウィン	ハワイ・日本
一八八四	明治十七年	駐日ハワイ代理公使任命	日布渡航約定書取り交わし 第一回官約移民渡航
一八八五	明治十八年	勲三等旭日中綬章を受章(移民 ノ件ニ便利ヲ致ス)	
一八八六	明治十九年	駐日ハワイ弁理公使任命	日布渡航条約締結
一八八八	明治二十一年	勲二等旭日重光章を受章(条 約締結ト移民渡航引率ノ功)	
一八八九	明治二十二年	勲一等瑞宝章を受章(日布両 国交際上力)	ハワイ革命により王政廃止 ハワイ共和国成立
一八九一	明治二十四年	伊香保の別邸を入手(イキ夫 人の姪(武智キク)の名義)	官約移民終了(計二六回、約 三万人渡航)
一八九二	明治二十五年	勲一等瑞宝章を受章(日布両 国交際上力)	ハワイ共和国 アメリカ合衆 国に併合
一八九三	明治二十六年	駐日ハワイ共和国弁理公使任命	
一八九四	明治二十七年	駐日ハワイ共和国弁理公使任 命	
一九〇〇	明治三十三年	井上馨、益田孝、渋沢栄一等 と台湾製糖株式会社を設立	
一九二五	大正十四年	一月五日 永眠。行年八一歳。	
一九二七	昭和二年	勲二等旭日大綬章を受章 伊香保の別邸を野間清治氏(講 談社社長)に売却	

## ◆ 伊香保ご案内 ◆



## ◆ 施設案内 ◆

開館時間／午前9時～午後4時30分  
休館日／毎週火曜日(祝日を除く)、  
祝日の翌日(土日を除く)、  
12月28日～翌1月4日

所在地／群馬県渋川市伊香保町伊香保32  
電話番号／☎ 0279(20)3033

### ガイドンス施設入館料／

- 一般：200円(団体160円<20名以上>)
- 小中高生：100円(団体 80円<20名以上>)
- 未就学児・障害者手帳お持ちの方及びその付添人1名：無料



〒377-8502 群馬県渋川市北橋町真壁2372-1  
渋川市教育委員会文化財保護課 ☎ 0279(52)2102

## 渋川市指定史跡

# ハワイ王国公使別邸



## 渋川市教育委員会

資料・写真提供/アルウィン学園 鈴木茂弘氏



## アルウィン家と伊香保

アルウィン家と伊香保とのかかわりは、ロバート・ウォーカー・アルウィンが伊香保に別荘を求めたことから始まります。

日本人女性イキと結婚し、次々と子どもに恵まれたアルウィンは、子どもたちの健康のためと高温多湿な日本の夏を快適に過ごすため別荘を探していたところ、井上馨の紹介で伊香保を来訪。温泉地にあるこの別荘を大変気に入り明治24年（1891）に買い求め、大正14年（1925）に亡くなるまで毎夏を伊香保で過ごすことを楽しんでいました。



長女ベラ

また、アルウィン家の長女ソフィア・アラベラ（通称ベラ）は特に伊香保を愛し、花を摘み、絵を描き、鳥や虫の音に耳をかたむけ、朝晩の散歩と近所の子もたちとの遊びを楽しみにしていました。子どもたちと仲良くなったベラは、キリスト教の教えを伝えることを思いつき、別荘を日曜学校として開放します。この日曜学校はやがて伊香保の大人たちの間にも広がり、ついには別荘だけでは間に合わないほどになりました。その後、ベラは自らの勉強のためアメリカ留学を果たしますが、その間も日曜学校は伊香保の人々によって続けられました。後年「伊香保にパパが別荘を持ったこと、それがもう私に対しての、神の愛のご計画だったのです…」と語ったベラは教育事業に身をゆだねることとなり、現在、東京都杉並区にある「アルウィン学園・玉成保育専門学校」を創立するに至りました。ベラは学園隣接の自室で昭和32年（1957）永眠しました。



## ハワイ王国公使別邸

この建物は、地元の人たちの間で「ハワイ公使別邸」、「アルウィンさんの別荘」と呼ばれて親しまれてきました。

昭和60年（1985）に、日本からハワイに官約移民が渡って100年になることを記念し、日本とハワイ独立国当時の交流を示す外交資料として、史跡に指定し、保存してきました。

現在残されている建物は、ごく僅かですが、当時の写真からは別に平屋や二階建ての建物があったことがわかります。

## ロバート・ウォーカー・アルウィン

この建物を所有していたハワイ公使はロバート・ウォーカー・アルウィンで、母はアメリカ独立当時の政治家ベンジャミン・フランクリンの直系の子孫です。

井上馨や多くの財界人とも交流を持ち、我が国を貿易立国として発展させる基礎を築いた功労者であるとともに、ハワイの日系人の基礎となった官約移民を実現した人でもあり、「ハワイ官約移民の父」とも呼ばれ、数々の功労により日本政府から勲一等旭日大綬章をはじめ多くの勲章を受けています。

またアルウィンは、日本政府が結婚を認めた正式な国際結婚の第一号でもあります。

## ハワイ移民

ハワイでは1800年代中頃からサトウキビ栽培が盛んになり、労働力不足となりました。

明治4年（1871）日布和親通商条約が締結されたことを受け、ハワイ王国から労働力の提供を強く要望されていた日本政府は、明治17年（1884）渡航約定書を取り交わし、翌年1月に943名の日本人がハワイに渡ります。この移民は、日布渡航条約に基づいたため「官約移民」と呼ばれ、明治27年（1894）までに約3万人の移民が送り出されました。

このとき駐日ハワイ王国代理公使（後に弁理公使）として移民の送り出しに尽力したのがロバート・ウォーカー・アルウィンであり、この「官約移民制度」は「アルウィン・システム」とも呼ばれています。

## ガイドンス施設

伊香保とハワイとの関係やアルウィン家等に関する資料に加え、当時の写真や生活用品などを展示しています。

